

登別中学校

第6回学校適正配置に関する地区別検討委員会 議事録

日時 令和5年6月27日（火）18時00分

会場 登別市観光交流センターヌプル

出席者 （委員）

飯尾委員、関川委員、岡崎委員、日野委員、坂井委員、岸委員、斉藤委員、
畠山委員、中川委員、川西委員、成田委員、須賀委員、工藤委員

（事務局）

森元部長、菅田参与、舘下次長、近間総括主幹、南雲建築主幹、西川原総括主幹、
秋葉学務主幹、蓬田主査、林担当員

【議事録】

○中川会長 それでは時間となりましたので、登別中学校の第6回学校適正配置に関する地区別検討委員会を開催いたします。

部会での議論が終了したことを踏まえて、今年4月から、地区別検討委員会の全体会議を再開しております。

前々回の会議では、教育環境部会、まちづくり部会、双方の部会長より、部会としての議論のまとめについて報告をいただきました。

続く前回の会議では、部会での議論のまとめを踏まえて、地区別検討委員会としての意見をまとめるべく意見交換を行いました。

委員の皆さんからは、子どもたちの教育環境を第一に結論をまとめるべき、また統合する場合には子どもたちへのケアを十分重視すべきとの意見が聞かれたほか、教育環境面では統合が必要だが、地域への影響を考えると、地域活性化の議論をしっかりと行っていかなければならないとの意見も聞かされました。

部会の結論は、統合に対する賛否が割れる結果となったわけですが、前回会議の議論では、異なる意見を否定することなく、互いの立場を尊重しながら、教育環境、まちづくりの両面から広範に意見交換を行うことができたものと思ってお

ります。

その結果、私の方で、これまでの議論を踏まえて、教育委員会に対する意見書、議論のまとめの案を作成し、今回会議で示すことが了承されました。

そこで会議次第2の協議事項として、私の方で作成した議論のまとめ、教育委員会に提出する「登別中学校の統合に関する意見について」の案に関し、協議を行いたいと思います。

はじめに、意見書案の内容に関し、私の方から説明いたします。お手元にお配りした資料をご覧ください。

前回会議以降、部会での議論の経過やまとめ、そして前回会議で委員の皆さんからいただいた意見などを踏まえて、教育委員会に対する意見書の案を検討して参りました。

これまでの議論を振り返ると、委員の皆さんの意見は必ずしも一致しておらず、統合に対する賛否も割れておりましたので、地区別検討委員会として一つの結論をまとめるにしても、賛否両方の意見があったことを明記すべきと考えました。

そこで、意見書(案)の前半部分では、5回の全体会議、教育環境部会10回、まちづくり部会8回にわたった部会における議論の経過とまとめに関し、詳細に記述しております。

内容については、両部会長からの報告に準じたものになっておりますので、ここでは詳しく説明いたしません。委員の皆さんそれぞれにご確認いただければと思います。

次に5ページ以降が、それら議論の経過とまとめを踏まえてまとめた、地区別検討委員会としての結論、「登別中学校の統合に関する意見」となっております。

さきほども申しあげましたように、部会での議論のまとめは、統合に対する賛否が割れる結果となったわけですが、部会での議論終了後に地区別検討委員会本体での協議を再開して以降は、互いの意見を否定することなく、教育環境、まちづくりの両面から広範に意見交換が行われたものと思っております。

特に、前回の第5回会議では、子どもたちの教育環境を第一に結論をまとめるべき、統合する場合には子どもたちへのケアを重視すべき、教育環境面では統合が必要だが、地域への影響を考えると、地域活性化の議論をしっかりと行ってい

かなければならない、地域活性化の議論にあたっては、それに特化した協議体を作り、行政から全面的なバックアップを受けることが必要など、建設的な意見が多く聞かれました。

部会の段階では、統合への賛否を含め、様々な意見があったわけですが、これまで1年半の長きにわたり皆さんの熱心な議論を経た結果、まちづくりに影響が生じるかもしれないことを危惧しながらも、子どもたちのことを第一に考え、最終的には多くの委員から統合に理解を示す意見が聞かれたものと思っております。

委員の皆さんにおかれましては、中学校が無くなることに寂しさを感じ、複雑な思いを抱きながらも、子どもたちの学びを最優先に考えられたのだと思っておりますし、これについては、私もこの地域に長く住む者として、まさに同じ思いを持っているところでございます。統合に関する意見を取りまとめるにあたって、委員の皆さんのそうした思いを受け止めて検討いたしました。

その内容についてであります。基本的な考え方としては、「登別中学校と幌別中学校の校区を一つにする（統合する）ことを容認する」という結論となっております。

また、統合時期については、前回会議で事務局より示された統合に要する準備期間なども参考にして、「令和9年4月1日」としております。

その上で、教育委員会に対しては、統合を容認する条件として、教育環境とまちづくりの両面で、必要な措置を講ずるよう要望する内容となっております。

その内容についてであります。はじめに教育環境に関する要望事項は6項目となっております。

このうち、①校名、校歌、制服については、統合決定後に両校関係者で組織する新たな協議体でそのあり方を協議するよう求める内容となっております。

続く②通学方法・通学手段について、③特色ある教育の取扱いについて、④学校保管資料の取扱いについても同様に、統合決定後に組織する新たな協議体でそのあり方を協議することを要望する内容となっております。

また、⑤学校間の交流事業についてですが、登別中学校では、現在においても、生徒数の減少が相当程度進んでいることから、統合前に実施する生徒同士の事前

交流事業だけでなく、幌別中学校との連携をできることから進めるよう求める内容となっております。

⑥統合時の生徒に対するケアについては、登別中学校の生徒にとっては、統合で大きく環境が変わることから、統合時の教員配置など、登別中学校生徒へのケアを万全とするよう求める内容となっております。

次にまちづくりに関してですが、これまでの議論を振り返ると、統合に対する賛否、立場は異なれど、地域活性化の取組を進めなければならないということに関しては、委員間で一致したところだったと思っております。

私としては、子どもたちの教育環境を第一に考え、まずは統合を容認した上で地域活性化の議論、取組を行わなければならないと考えており、それを実効性のあるものにするためにも、今後の取組に対する行政の支援を確実且つ強力なものにしていかなければならないと思っております。

そこで、まちづくりに関する要望事項としては、今後、この地域の有志が、地域活性化に関する新たな協議体を立ち上げて議論を行う際には、その運営と議論に行政の全面的なバックアップが得られるよう求める内容となっております。

以上が、教育委員会に対する「登別中学校の統合に関する意見」の案となっております。私としては、この内容で地区別検討委員会としての結論をまとめたと考えております。

これに関し、委員の皆さんから意見をいただきたいと思いますが、内容としては、部会での議論や地区別検討委員会本体での意見を踏まえてまとめたものとなっておりますので、さらに新しい意見というよりは、意見書のとりまとめ方などに関して、委員の皆さんからの質問や意見をいただければと思います。

委員の皆さん、いかがでしょうか？

(異議なしの声あり)

○中川会長 異議なしという声がありました。委員の皆さんから反対意見は無かったということで、この内容でまとめるということによろしいでしょうか？

○委員 私たちの部会は反対だったわけですので、そうした文言を盛ってもらいたい。まちづくり部会では、1年近く議論してきて、反対という結論になったわけですから、「2. 登別中学校の統合に関する意見」の中に、きちりと書いてもらいたい。

○中川会長 両部会の結論としては、この意見書の中にも書いてありますけれども。

○委員 まちづくり部会としては、反対という結論になったわけですから、この中にもきちんと入れてもらいたい。

○中川会長 4ページの四角内の部分に、まちづくり部会としては、反対という結論になったということははっきりと書いてありますが。

○委員 会長の言うとおりに、4ページ上の四角内には明確に反対とは書いてあるんですが、委員がおっしゃってるのは、それを「2. 登別中学校の統合に関する意見」の中に追記してもらえないかということだと思います。

○委員 まちづくり部会としては反対だったわけですから、その意見を書いてもらいたいわけですよ。

○中川会長 「2. 登別中学校の統合に関する意見」の中に、まちづくり部会としては反対だったという文言を入れるということですか。それとも、今回お示した結論自体に反対するということですか？

○委員 まちづくり部会としては反対だったということを書いてもらいたいということです。

○中川会長 「2. 登別中学校の統合に関する意見」の中に入れて欲しいということですね。

○委員 そうだよ、入れなきゃ意味がない。

○事務局 「2. 登別中学校の統合に関する意見」は、地区別検討委員会としての最終的な意見になりますので、ここでは賛成か反対かどちらかの立場を明記しないといけないということで会長はこういう内容で作られたものと思います。その前段の「1. 地区別検討委員会における議論の経過」では、まちづくり部会としては反対の結論だったということ、そこに至る議論の経過も含めて詳細に記載しているものと思います。

○委員 言いたいのは、「2. 登別中学校の統合に関する意見」が委員会としての意見書になるわけですので、この部分にまちづくり部会として反対であったということを入れてもらいたいということです。

○事務局 「2. 登別中学校の統合に関する意見」は、両部会での議論を経た、地区別検討委員会としての最終的な意見ということになりますので、容認するのか、反対するのか、いずれかの立場を明確に示さなければならないということで、このような形になっているものと思います。ただ、議論の経過では、様々な議論があったということは委員がおっしゃるとおりであり、これについては、会長からも説明があったように、「1. 地区別検討委員会における議論の経過」で明記しておりますので、そうした意味では、反対意見もあったということがよくわかる形になっているものと思います。会長の説明もそのような内容だったと思います。

○委員 これを見るとそういうことを書いてない、2「2. 登別中学校の統合に関する意見」には、そういうことは書いていないのではないかと。まちづくり部会は反対したんだから、そうした文言を入れて欲しい。1年以上の時間をかけて議論してきたんだから、何も残らないで終わるっていうのは、それはちょっといけない。

○中川会長 委員の意見について、他の委員の皆さんはどのようにお考えでしょうか。まちづくり部会に所属し、議論した方もいらっしゃいますが。

○委員　もう少し言わせてもらえば、マスコミは、「2. 登別中学校の統合に関する意見」の部分しか書かないわけでしょう。そうなれば、私たちまちづくり部会としては反対したんだということはわからないわけですから、やはりこの部分に入れてもらいたい。まちづくり部会の結論が載っていないわけですから。

○中川会長　まちづくり部会で議論された委員の方はいかがでしょうか？

○委員　適正配置に関する地区別検討委員会の意見ということですので、両部会の意見を入れれば、委員の気持ちも汲み取れるのかなと思いますが。確かに1年半以上議論してきたわけですから。

○委員　その部分については、4ページまでの部分でしっかりと説明していると思います。その上で、「2. 登別中学校の統合に関する意見」にあるとおり結論を出したということですので、この部分に盛り込む必要はないと思いますが。逆になぜ盛り込まないといけないのかがわかりません。反対と賛成があったけれども、最終的には子どもたちのためにとということで、前回の会議で、会長に結論を一任するという事になったと思います。その上で、まちづくり部会の皆さんが最も懸念していた部分については、地域活性化に特化した協議体を立ち上げて、その活動に行政の全面的なバックアップを要望する内容になっているわけですから、あえてこの部分に反対意見があったことを入れなくてもいいと思います。

○中川会長　他にいかがでしょうか？

○委員　4ページ目の上の部分までが、両部会で議論された中身で、まちづくりとしては反対と明記されています。逆に、教育環境部会も手放しで賛成したかつていたらそうではなくて、校区を見直して環境を整えるにはどういうことが必要なのかということも議論したわけであって、校区を見直す条件として、1～6を満たしてほしいというのが、教育環境部会の意見なわけです。決して賛成してるとか

反対してるとかっていう議論じゃないんで。まちづくり部会は、確かに賛成、反対で結論を導いたけれども、教育環境部会としては、校区を一つにするのであれば、どういうことを要望するのかということも含めて議論したわけです。その議論の結果が、「2. 登別中学校の統合に関する意見」の（1）に反映されているわけで、同様に、まちづくり部会で議論された結果は、（2）に反映されていると思いますので、私はこのままの形でいいのではないかと思います。

○中川会長 ありがとうございました。賛成、反対ではなくて、両部会で議論した結果がしっかりと反映されているという意見だったかと思います。両部会で議論に参加した委員はいかがでしょうか？

○委 員 私としては、1 ページから 4 ページが最も重要だと思っていますし、そういう意味では、1 年半以上にわたった議論をきちんとまとめていただいたと思っています。今回、統合、校区拡大の議論の中で様々な意見が出たわけですが、いまこれを読んで、しっかりと議論してきたんだとあらためて振り返っているところでした。そういう意味では、さきほども申し上げたように、この 1 年半の議論をしっかりとまとめていただいたものと思っています。その上で、5 ページ目が最終的なまとめになるわけですが、おそらく委員は、（1）が教育環境部会の結論で、（2）がまちづくり部会の結論と勘違いされたのではないかと思います。そういうことではなくて、両部会の議論を踏まえて、統合を容認するにあたっての、教育環境面、まちづくり面での条件として掲げられているものと思いますので、そうした意味では、まちづくり部会が、統合に反対した理由、地域から中学校が無くなることで地域の活力が低下してしまうのではないかと、これに対しては、地域活性化に特化して立ち上げる協議体に、市として全面的なバックアップを要望する内容となっております。同じように、（1）では、教育環境部会での議論の内容、統合を認めるにあたっての条件が要望事項としてまとめられています。そうした意味で、両方の部会に参加した私としても、この 1 年半の議論がよくまとめられているものと思っています。

○中川会長 ありがとうございます。まちづくりに関しては、地域活性化に関する議論に対して、市として全面的なバックアップを得られるよう要望する内容になっておりますので、この内容でまとめたいと思いますが。

○委 員 まちづくり部会は反対したと明記してください。

○中川会長 結論部分に、まちづくり部会として反対したということを記載しなくても、地域への影響に関し懸念されることについては、市に対して、地域活性化の議論に全面的なバックアップを要望すると明記されているわけですから、この内容でいいのかなと思いますが。

○委 員 反対があったわけですから、反対があったという文言を入れてもいいわけですよ。

○中川会長 他にいかがでしょうか？

○委 員 反対という文言を入れるか入れないかということだけではなくて、反対となった理由への対応として、「2. 登別中学校の統合に関する意見」の(2)では、市に対して支援を求めていくことが明記されています。地域への影響を考えれば、まちづくり部会としては反対だという気持ちは分かりますけれども、反対となった理由に対しては、しっかりと対応が打ち出されていますので。

○中川会長 ありがとうございます。他にどうでしょうか？

○委 員 私も教育環境部会として参加させていただきましたが、さきほど委員もおっしゃったように、本当に賛成か反対かで言われたら、正直どっちとは答えは出せないと思いますし、自分の子どもが幌別中学校に行かなければならなくなるということを考えれば、親として不安もあるわけですが、教育環境を考えれば、やはり統合が必要だと思いますし、そうした意味で、教育環境部会としても、校区をひ

とつにすることを重視して議論してきたと思います。その上で、教育環境部会では、反対、賛成だけではなくて、校区をひとつにする場合、どういう条件が必要かということについても議論してきたと思いますので、まちづくり部会としての結論についても、反対、賛成ということにこだわらずに、結論部分に盛り込めればいいのかなと思っています。

○中川会長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか？

○委 員 委員は、(1) が教育環境部会で、(2) がまちづくり部会という風にちょっと誤解されているのかなと思います。さきほど委員もおっしゃっておられたように、教育環境部会も必ずしも全面的に賛成したわけではなくて、反対意見もあったのだらうと思いますし、まちづくり部会としては賛成じゃなくて、反対の意見が圧倒的に多かったわけですけれども、これは学校の話だけではなくて、地域全体として捉えた場合にどうしたらいいのかという話だったと思いますので、今回の意見書の作りからいけば、「2. 登別中学校の統合に関する意見」の(1) が教育環境部会で、(2) がまちづくり部会ということではなくて、議論の全体の流れとして、教育環境のことを考えれば、統合を容認せざるを得ない状況ではあるけれども、緊急を要する対応として、地域活性化に向けた取組を進めなければならないということだったと思います。そうした意味で、教育環境とまちづくりの両面で、統合を容認するにあたって必要な条件が良くまとめられていますので、私はこの内容でいいのではないかと思っています。

○中川会長 昨年の4月以降は、2つの部会での議論が中心となり、教育環境部会は統合に賛成、まちづくり部会は反対という結論になったわけですが、教育環境部会にしても、全面的に賛成だったかという点、そうではなかったものと私も思っています。だからこそ、統合にあたっての条件が付されたのかなと思います。また、まちづくり部会としては、反対という結論になったわけで、まちづくりへの影響に関しては、会長である私も決して軽く見ているわけではありませんが、全体として検討していくと、統合に賛成、反対という立場を超えて、まずは子どもの教育

を考え、統合を容認することが必要なのかなと思ったところです。その上で、部会で重ねられてきた議論を踏まえて、統合を容認するにあたっての条件を、教育環境、まちづくりの両面で掲げる形をとっておりますので、まちづくり部会での議論の主旨も十分反映された内容になっているものと思っています。私としては、この形でまとめることができればと思いますが、いかがでしょうか？

○委員 私は反対します。

○委員 4ページまでは議論の経過で、5ページがまとめになるものと思います。後々検討委員会の議論の結果を振り返った時に、この5ページ部分が外に出ていくのかなと思います。確かに、4ページまでの部分には、まちづくり部会として反対だったことも明記されているわけですが、後々のことを考えれば、多様な意見があったことを、5ページの結論部分に追記するのがよろしいのではないかと思います。それによって、多様な意見とはどのような意見なんだろうということで、4ページ以前の内容も生きてくるのかなと思いますので。

○中川会長 文言を修正すべきという意見があれば、私の方で責任を持って修正させていただきますので、私にご一任いただければと思いますが。

○事務局 委員のご意見を踏まえて、事務局から提案させていただきます。「2. 登別中学校の統合に関する意見」の最初の部分に、委員ご指摘の一文を加えて、「登別中学校学校適正配置に関する地区別検討委員会は、議論の過程では多様な意見があったものの、それら意見を踏まえて検討した結果、登別中学校と幌別中学校の校区を一つにする(統合する)ことを容認する」と修正してはいかがでしょうか。これにより、委員ご指摘のように、4ページ以前の議論の経過に関する内容も良く喚起されるのではないかと思います。

○中川会長 委員の意見を踏まえて、事務局から提案がありましたが、この内容で修正することとしてよろしいでしょうか？

(異議なしの声あり)

○中川会長 異議なしの声がありましたので、一部文言修正を行った上で、この内容で意見書をまとめたいと思います。意見書の最終版については、後日、事務局から委員の皆さんに送付させていただきます。

○中川会長 最後に会議次第4の「その他」について、事務局よりお願いします。

○事務局 事務局から補足させていただきます。今回お配りした意見書の案では、第6回会議、今日の会議の内容が空欄になっておりますので、本日、皆さんからいただいた意見をまとめて追記することになります。この内容についても、会長に一任いただく形となります。また、委員のご指摘を踏まえての部分については、さきほど読み上げた内容で修正する形となります。これら修正内容を反映した最終版については、後日、事務局より委員の皆さんに送付させていただきます。次に、教育委員会の動きも含めまして今後の流れについて説明させていただきます。本日、地区別検討委員会として意見書がとりまとめられましたので、後日、会長から教育委員会に対して、意見書が手渡される形になろうかと思っております。教育委員会としては、その内容も踏まえて、登別中学校の統合に関してあらためて検討を行い、統合に関する方針の案を作成いたします。その後、この方針案につきましてパブリックコメントを行い、広く市民の皆さんから意見をいただいた上で、その意見も踏まえて、統合を正式決定することになります。現在の想定では、本年9月中には統合を正式決定する運びになろうかと思っております。その後は、両校関係者で組織する新たな協議体を設置し、地区別検討委員会からいただいた要望への対応を含め、統合にあたっての基本事項に関して協議を進めることとなります。その際には、あらためて皆様にご協力をお願いすることになろうかと思っておりますのでよろしくお願いいたします。最後になりますが、地区別検討委員会の会議は本日で最後になります。委員の皆さんにおかれましては、令和3年10月から1年半以上にわたりまして、大変お忙しい中、議論に参加いただきました。事務局

からもあらためてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

○中川会長 事務局からもありましたとおり、地区別検討委員会の会議は本日で最後となります。子どもの減少はこの地域に限ったことではなく、そうした意味では、学校統合は仕方ない部分があるわけですが、一方で、地域から中学校が無くなるということは、ここに住む我々にとっては非常に大きなことであるのも確かです。そうした意味で、我々としては、地域から中学校が無くなることに寂しさを感じ、また、地域への影響を強く懸念しながらも、最終的には、子どもの教育のことを考え、統合を容認する結論をまとめたところです。今後は、意見書に盛り込まれた要望事項にしっかりと対応してもらえるよう、私たちとしても頑張っていかなければならないと思っています。私個人としては、登別中学校の今後のあり方を検討するこの委員会の会長を任されまして、非常に大きな責任を感じておりましたが、皆様のご協力により、地域として結論がまとめられたことを嬉しく思っております。最後になりますが、委員の皆さんにおかれましては、ご協力ありがとうございました。

○委 員 最後に一点よろしいでしょうか。私は、カルルスが登別温泉の学校とひとつになり、さらに登別温泉の学校が登別の学校とひとつになる経過を当事者として見てきました。2つの学校が1つになる過程では、必ずしも1+1が2になるわけではなく、カリキュラムの問題などもあって、1+1が1にしかならないという例も多く見てきました。例えば、登別温泉中学校と登別中学校が統合した際には、登別温泉中学校で取り組まれてきた熊舞を行う代わりに、登別中学校で取り組まれてきた立志式の伝統が失われるということがありました。今回の統合に際しても、様々な話し合いが行われることになろうかと思いますが、両校の取組が引き継がれるよう、1+1が2になり、3になるよう、教育委員会としても、しっかり取り組んでいただきたいと思います。

○中川会長 ありがとうございました。今回まとめた意見書で言えば、まさに特色ある教育の取扱いの部分かなと思います。これに関しては、教育委員会に対して、両校関

係者で組織する協議体で検討するよう要望しておりますし、我々としても、しっかりと引き継がれるよう見ていかなければならないと思っています。それでは、皆さん、ありがとうございました。